

# 意見具申対応報告と3校の建替え案件について

**①設計期間の短縮** → 年度に捉われない発注等で短縮します。

## **②PFI導入可能性検討**

案件（1）～（3）は令和4年度に選定・検討し、保護者及び地域へスケジュールや建物の想定規模等を説明済みです。現段階での大幅な案の変更が難しいため、当初案（公共発注方式）とします。なお、R5年度に新たに検討に着手する学校から対応します。

**③事業費の適正化** → コスト縮減とともに適正化を図ります。

## **④幅広い複合化**

案件（1）～（3）は、福祉施設や文化施設を含めた周辺地域との複合化を検討しましたが、対象施設がありませんでした。

**⑤可変性のある建物** → 留意して設計します。

【教育－1】学校施設の建替事業  
（上末吉小学校）

【教育－2】学校施設の建替事業  
（南小学校）

【教育－3】学校施設の建替事業  
（大門小学校）



## I 共通事項

- (1) 建替対象校の選定理由、検討方法
- (2) 児童数の見通しについて
- (3) 学校建替えにおける通学安全の配慮(事例①②)

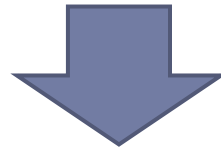
## II 個別説明

- (1) 上末吉小学校
- (2) 南小学校
- (3) 大門小学校

## 「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」

建替校選定の基本

【候補校】最古の校舎が築50年以上



【選定基準】

- ① 築70年に近い校舎がある  
又は
- ② 校舎の平均築年数が古い

# I 共通事項 (1) 建替対象校の選定理由、検討方法

## 【3校の選定理由】

### 校舎の平均築年数が古い

＜校舎の平均築年数＞(令和4年4月1日時点)

- ①上末吉小学校:48.2年 (最古の棟 築54年)
- ②南小学校:47.6年 (最古の棟 築58年)
- ③大門小:46.63年 (最古の棟 築48年)

※大門小の最古の棟は築50年未満だが、浸水対策の強化が望まれるため選定

**建替対象校選定会議**で選定

(教育長を議長とする、教育委員会事務局内の会議)

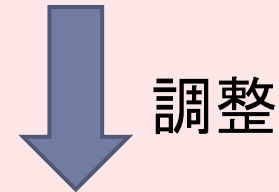
**資産活用推進会議**で審議

(財政局ファシリティマネジメント推進部長を議長とする、  
総務局・政策局・都市整備局・建築局・市民局等の会議)

## 基本構想の検討項目①

### 資産活用推進会議の手続き

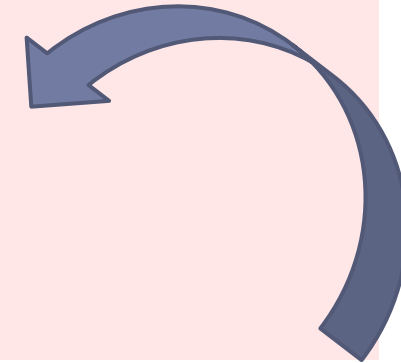
①当該敷地活用に関する全局照会(関連事業や複合化要望等)



②会議において、

- ・周辺の公共施設等との複合化の可能性
- ・区役所及び地域関係者の意見
- ・事業手法、コスト等

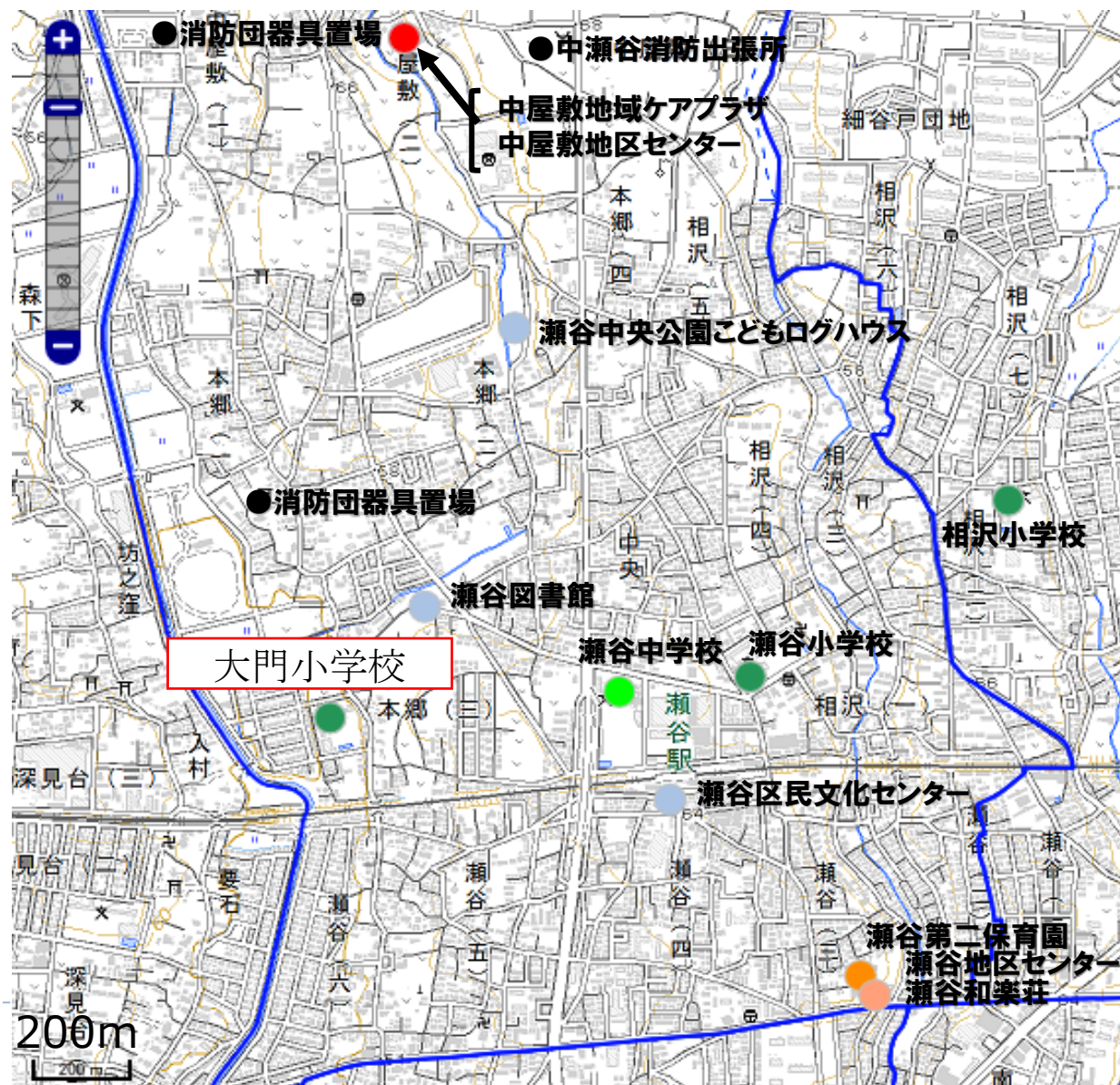
を協議、審議(段階に合わせて2回諮る)



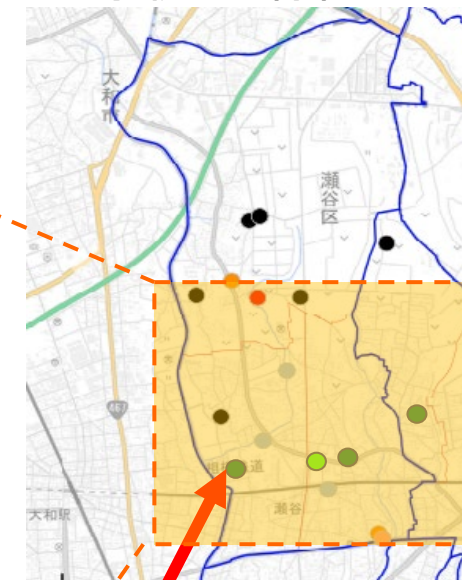
学校ごとの建替事業説明会を  
協議・審議の間に実施  
(学区内自治会町内会、PTA等)

# I 共通事項 (1) 建替対象校の選定理由、方法

## 資産活用推進会議の手続き



### 中学校区(青枠)



大門小学校

周辺施設の規模・築年数などから  
複合化の可否を検討

## 基本構想の検討項目② 配置検討の検討項目（例）

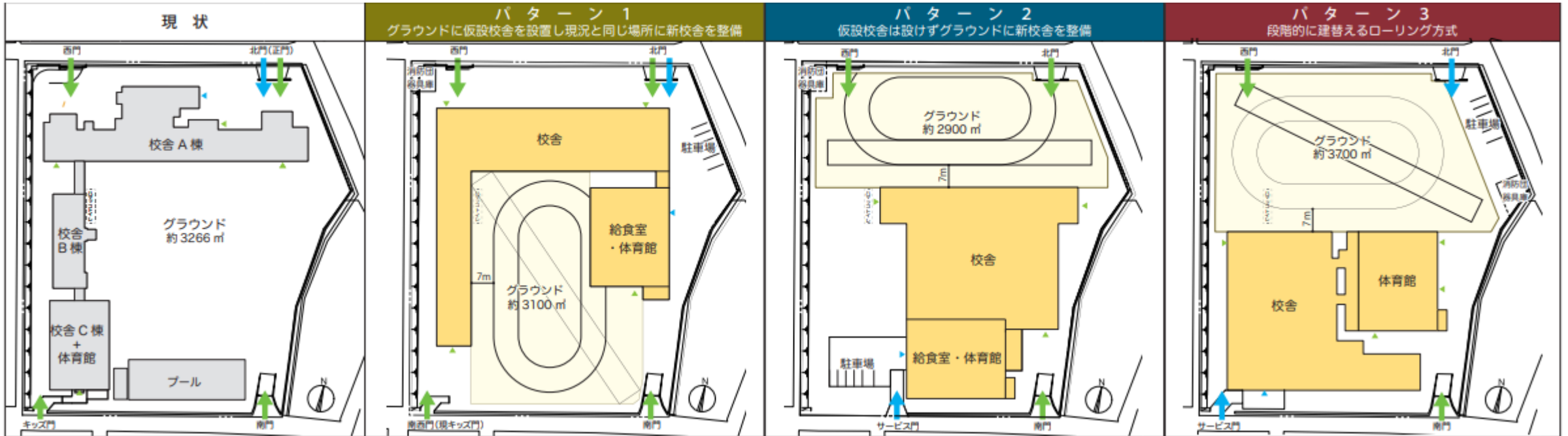
検討項目	
アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・教職員のアプローチを確保できるか</li> <li>・歩車分離はできるか</li> <li>・地域開放部分にアプローチしやすいか、児童動線と分離可能か</li> </ul>
配置計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室等の環境はよいか（日当たり、静かな環境など）</li> <li>・教室間の移動距離は短いか、体育館棟への移動は容易か</li> <li>・グラウンドは標準面積（3,800㎡）を確保できるか（120mトラックが入るか）</li> <li>・グラウンドの形状は使いやすいか</li> </ul>
周辺への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺への日影の影響は抑えられているか</li> <li>・周辺環境の変化は建替え前と比べ少ないか</li> </ul>
学校運営への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎供用開始までの期間が短いか</li> <li>・仮設校舎設置はなるべく抑えられているか。</li> <li>・仮設校舎が必要な場合、引っ越しの回数は少ないか</li> <li>・建替え期間中、給食室や体育館、グラウンドは使用可能か</li> </ul>
全体工期 概算事業費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体工期が短いか</li> <li>・概算事業費は抑えられているか</li> </ul>

7 ⇒ これらの項目から配置案を比較検討し、総合的に評価



# 基本構想の検討項目②（大門小学校の検討例）

工事期間中、既存校舎を使用しながら、地域防災拠点の機能も維持するような工程・校舎配置の方向性を「基本構想」で複数案、検討します。



既存配置

現況配置とほぼ同じ  
(仮設多い)

入れ替え配置  
(仮設なし)

ローリング工事  
(仮設最小限)

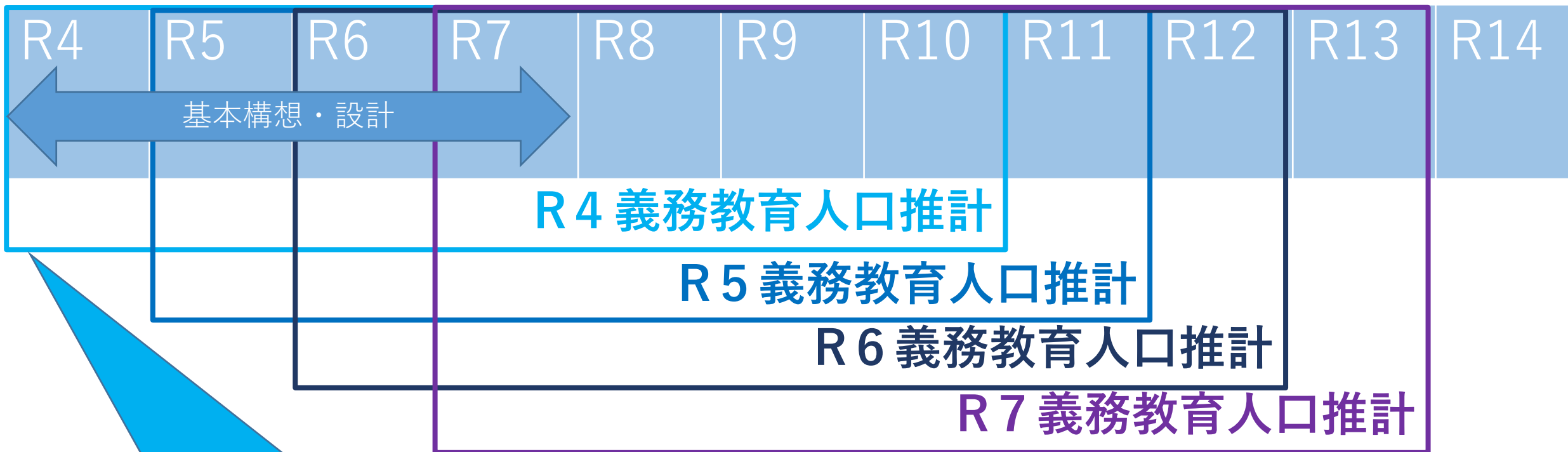
パターン3は、普通教室を南側に配置でき、施設が集約化され移動距離が短い。グラウンドは北側となるが、最も広く面積を確保でき(3,700㎡)、120mトラックも確保可能。工期がやや長い、新体育館が1年3か月で使用可能であり、総合的に評価が高い。

# I 共通事項 (2) 児童数の見通しについて

## 義務教育人口推計（公表値）

- ・ 住民基本台帳及び学校実態調査等から抽出した、令和4年5月1日現在の幼児、児童数に、幼児増減率・就学率、転出入率を考慮し、集合住宅等建設見込みからの児童数の急増分を加えて、向こう6年間の児童数を予測し、学校別に年度毎の推計値を表したものです。
- ・ 幼児・児童数、幼児増減率・就学率、転出入率、急増要因等のデータは年度ごとに変動が見込まれることから、毎年度、最新のデータを基に推計を作成しています。

# 建替えにおいて参考にする学級数



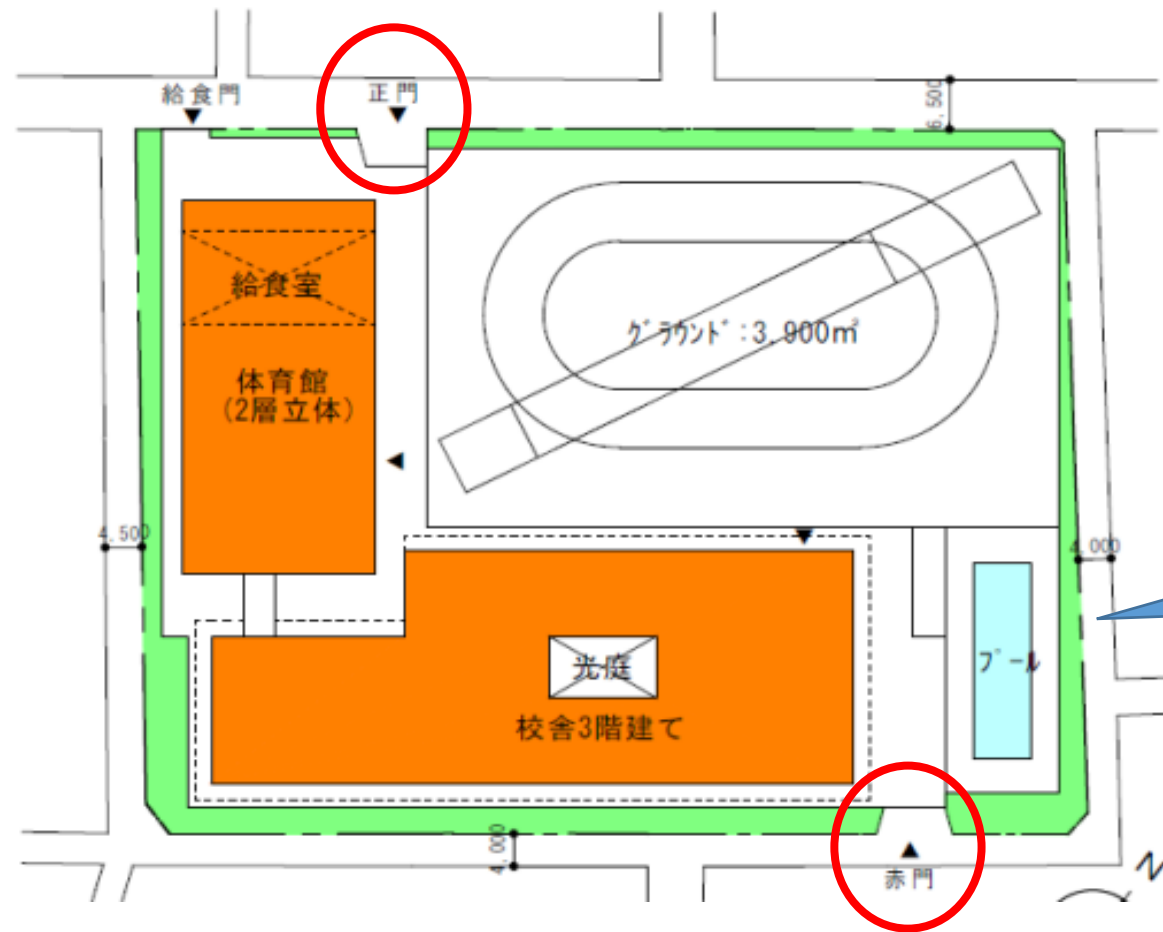
令和4年度の基本構想策定時は、令和10年度までの義務教育人口推計を参考に整備する教室数を想定

設計段階において、年度の義務教育人口推計を参考とし、変更があれば最新の推計を採用して整備する教室数を確定

# I 共通事項 (3) 学校建替えにおける通学安全の配慮 (事例①)

住宅地にある学校では、学校敷地周辺に歩道がない学校も多くあります。地域の道路利用状況について、学校への聞き取りや地域説明会等でご意見を伺い、必要に応じて学校施設の建替えと併せて行うことができる対策を考えています。

【整備イメージ図】



## 矢向小学校

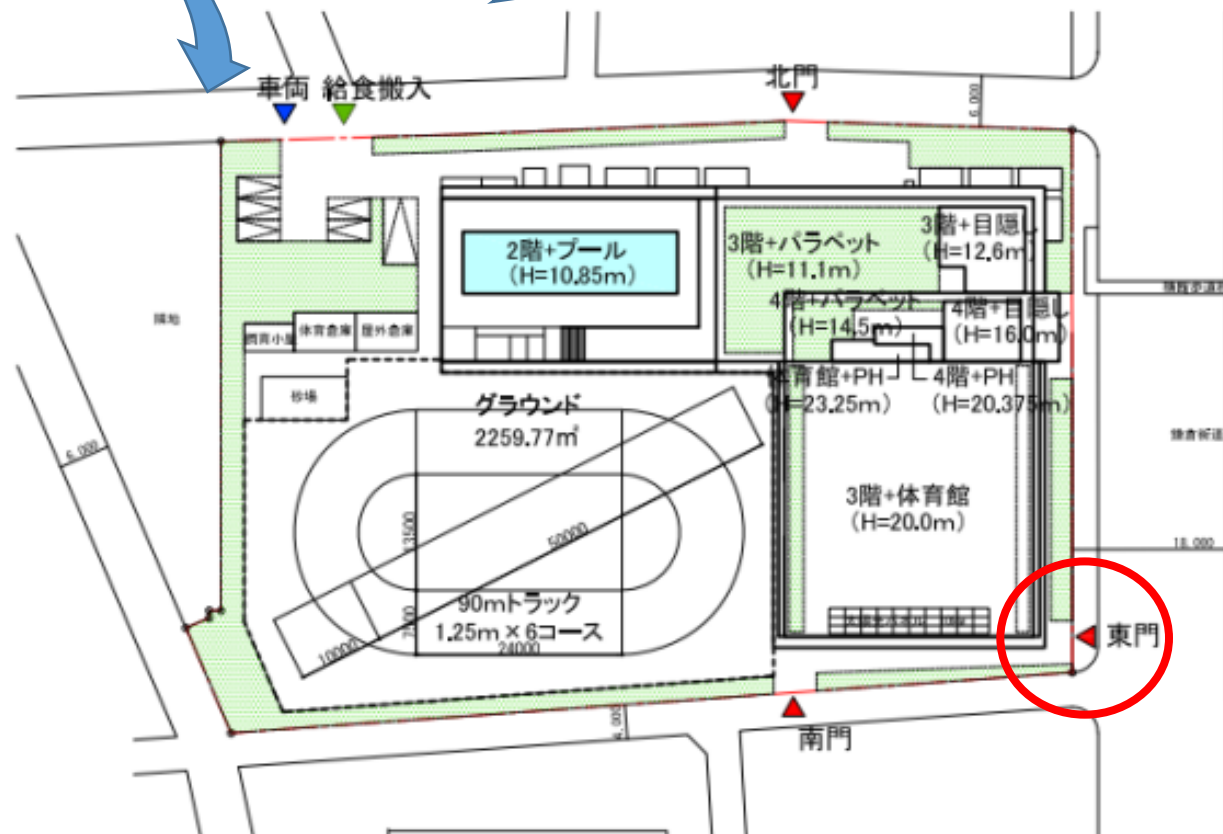
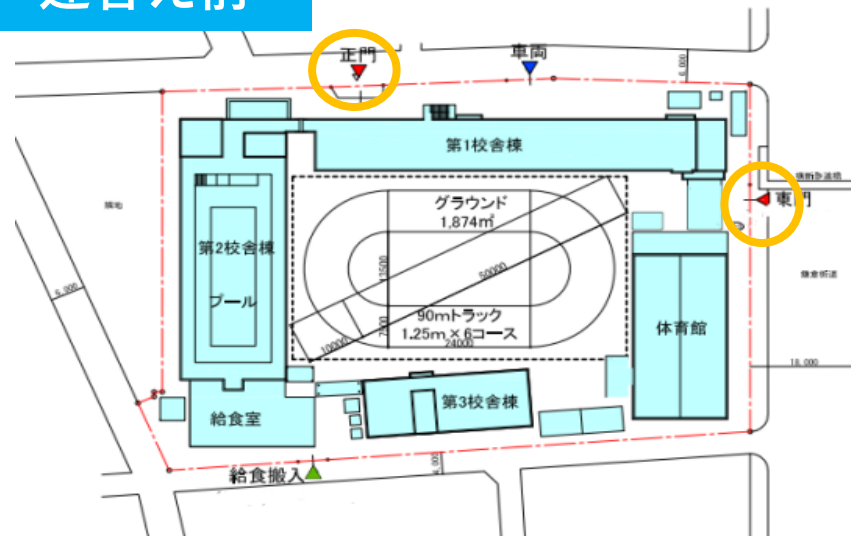
歩道がないため、通用門の箇所にたまりを設けました。  
(桜岡小も同様)

たまりを作る = グラウンド面積を削ることになるため、最小限で効果的な対策ができるよう配慮しています。

# I 共通事項 (3) 学校建替えにおける通学安全の配慮 (事例②)

建替え前

建替え後



ハードだけでは対応が難しい場合は、通学路の変更など、ソフトも併せて検討します。

## 南小学校

現在の正門は車両の通行量が多い北側ですが、北側には歩道がありません。  
このため、建替え後は、歩道がある東側へ正門に移すこととしました。